

町長室から

大西洋

で発生した過去最強クラスのハリケーン「イルマ」が、カリブ海での島々を襲い24人の死亡者、253万戸の停電や全滅する地域もあるなど大きな犠牲を出しましたが、アメリカのフロリダ半島では厳戒態勢がしかれ、進路にある州では合わせて700万人に避難命令が出されました。

昨年の北海道を襲来した台風を思い起こさせる出来事ですが、十勝では昨年とは様変わりりで雨が少なく、小麦への影響も懸念されましたが、その心配も杞憂に終わり例年並みの収穫が収められたようです。その後も好天が続き、澁原用馬鈴薯の収穫作業も順調に推移していますので、豊稔の出来秋を期待したいものです。

浦幌町の後継者と札幌を中心とした女性たちとの出会いの場を提供する『浦幌へお嫁に行こうツアー』を今年も開催しました。女性26名、男性30名の参加を得て女性陣は札幌からバスで来ますが、「HBCカーナビラジオ午後一番」のパーソナリティーYASUさんが同乗して車中での会話で盛り上がりながらやってきま

した。8月19、20日の2日間のイベントでしたが、最後にお互いにご意中の人を1名だけ記入したカードを提出して、カップルが成立するかどうかが決まります。

これだけの人数が1対1の組み合わせになるのは非常に確率が低いと思われませんが、今年は11組のカップリングが成立し、関係者も驚きの結果でした。

カップリングにならなかった皆さんはちよっとしたすれ違いがあったようです。

このイベントには多くの皆さんにもお手伝いしていただきましたこと、関係者や皆さんには真剣に取り組んでいただいていたことに感謝申し上げます。カップリングが成立した組には真剣なお付き合いをしていたいただき、ご成婚と言つ「ゴールを目指してもらいたいもの」と心から願っています。

一昨年からのラーニングジャーニーが今年は「シェフインレジデンス」として『常室小で浦幌町を美味しく食べる大パーティー』を開催しましたが、お菓子作家として活躍されている吉崎亜沙子シェフさんが浦幌町に

滞在して、町内在住の坂下さんや地元の皆さんと協力して浦幌町産品の創作料理を作り上げ、皆さんに試食していただくというイベントでした。

「ラーニングジャーニー」は若者や移住候補者を対象に町内で地域滞在型人材研修を実施し、浦幌町での新しい働き方、暮らし方のきっかけを作る機会を提供しながら、新事業創出、育成支援組織に関する調査研究を行なう事業であり、一昨年度に国の地方創生先行型交付金の補助で始めた事業ですが、昨年は建築を志す東京芸術大学、京都工芸大学、東京芝浦大学、東洋大学、山口大学など全国の大学生や東京都職員など13名が全国各地からばらばらに参加して、著名な建築家の坂東幸輔氏などの指導を仰ぎながら、1週間の日程で滞在型研修を行いました。旧常室小跡地の活用・活性化案の4つの提案を行ってもらいましたが、今年はその1つを実現したものです。

旧常室小学校での会場作りには大学生達が参加して、小室下司建築事務所の小室匡示氏と下司歩氏が講師に当たっていただき

ましたし、坂東幸輔氏もお忙しい中を時間を割いて参加していただきました。また、家具デザイナーの鴻野祐氏には1ヶ月間も浦幌町に滞在していただきご協力いただきました。

参加費は無料で美味しい料理を楽しめる会でしたが、予定していた50名を大きく超える町民の皆様が参加していただき盛況の内に終了することができました。

今、浦幌町では旧常室小を中心として何かが起きつつあります。このイベントで更に旧常室小跡地の活用・活性化案が具体的なものになってきました。地域おこし協力隊もいろいろな仕掛けを考え実行していますので、イベントには皆さんも積極的にご参加していただくことを願っています。

秋は目の前ですが、季節の変わり目には体調の管理をしっかりしていただくようお願いいたします。

浦幌町長 水澤一廣